

最高に可愛い自慢の妹へ

柳原 英恵

私には、二才八ヶ月年下の妹がいる。私達はとても仲が良い。妹は話せるようになった頃によく、

「ももちゃんが産まれる前、お空でみんなの事を見ていて、優しいよねーねーだと思って、ママのおなかに来たんだよ。」と得意気に言った。絵本の話をしているのかなと信じた事は無いが、そう言われるとなんだかとても心が温かくなり、妹をぎゅつと抱きしめる。すると妹は満足そうにニッコリ笑う。私はこのやりとりが大好きだった。

そんな妹と私は三年前から、ピアノの連弾でコンクールや演奏会に出ている。連弾は、自分と相手の音をびったり合わせて、お互いを感じながら、支えるように音を響かせたり、ふくらましたり。さつと前に出たり、引いたりと見せ場を作りながら、二人で一つの演奏に仕上げる事がとても難しい。そのため、休みの日には朝から夜まで練習する。疲れてくると妹とケンカになることもあるが、お互いの気持ちと音色、音の粒がびったり合った時、大きな達成感を得られる。私はその瞬間が大好きだ。

今年は小学校最後の年なので、夏のコンクールを目指して、二人で必死に練習をしてきた。それなのに、コンクール当日、私は会場で、きん張から泣き出してしまった。本当に情けない恥ずかしい経験だった。でも、妹は黙って、その小さな手で震える私の手を握って落ち着かせてくれた。出番が来て、何とかミスなく弾

き切ったが、審査員の耳は誤魔化せない。「音がかたい。もつと自由に。」点数は伸びず、私達の夢は叶わなかった。

私はきん張しいで、こぞぞという時に力を発揮できない事が多い。そんな弱い自分が嫌いだ。つくづく嫌になる。でも、妹はこんな私の事を小さい頃からずっと変わらず、

「自慢のねーねーだよ。大好きだよ。」と言ってくれる。その言葉に心底救われている。毎日、楽しい事もしんどい事もある。でも、妹が側にいてくれるから、私はいつも前向きに努力を続けられて「自慢のねーねー」でいられるのだと思う。

私は妹が私の妹として、産まれて来てくれた事に深く感謝している。その気持ちをこの機会に伝えたい。

ももちゃん、私の妹として産まれてきてくれて、いつも心の支えになってくれてありがとう。ももちゃんと一緒にいると悲しい事や辛い事は半分に、楽しい事や嬉しい事は二倍になるよ。毎日、同じ目標に向かって、一緒にピアノを頑張れる事、本当に幸せだよ。次のコンクールでは、絶対に自分の気持ちに勝って、ももちゃんの事を引つ張って行くから安心してついてきてね。私達の夢を叶えようね。これからも二人で色々な事を経験して、乗り越えていくのが楽しみだよ。最高に可愛い自慢の妹へ、心からありがとう。